

豊科南小学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

ー 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ー

安曇野市立豊科南小学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南小学校は安曇野市の南に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、近くを拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。

児童数681名、1～4年生が学年4学級で5、6年生は学年3学級、特別支援学級5学級、こども病院の院内学級1学級を含め全28学級の中規模校である。広い校地を有し、1、2年生と特別支援学級が南校舎、3年生以上は北校舎でそれぞれの棟に独立している。また、バッテリー校舎のため、3年生以上の教室がそれぞれ独立した校舎になっている。

このようなことから、災害時には校地の到る所から児童が避難してくることが想定され、児童自身が防災教育の点から「自ら考えて避難できる」ことが大切であると考える。

2 安曇野市立豊科南小学校の防災組織

○本部（校長、教頭、教務主任、防災係主任） ○連絡（教頭、教務主任、事務）
○統率（学年主任） ○巡視 ○初期消火 ○救護 ○救急医療

3 今年度実施した避難訓練について

今年度は新型コロナウイルス感染拡大対策として、例年3回行っている全校での訓練の内、2回を中止せざるを得ない状況だった。そのような状況下での本校の取り組みは以下の通りである。

(1) 聞き取り訓練 4月9日（木）休み時間に実施

- ①ねらい 新年度になり、緊急地震速報放送を落ち着いた状態でしっかり聞き取ることができるかどうか確かめる訓練を行う。また、緊急放送がどここの場所でも聞き取れるかを職員が確認をする。
- ②指導内容 緊急地震速報がなった場合、その場にすわり落ち着いて放送の内容を聞き取ることができたかどうか。また、各教室からの避難経路を覚えること、災害時の避難の仕方、放送の聞き取り、「おはしも」の確認をする。

(2) 第1回避難訓練 4月17日（金）2校時実施

以下のねらいと内容で予定していたが、感染症拡大のための臨時休業に入ってしまったため、実施できなかった。休業が開けた5月の最終週に、学級毎に避難路の確認のみを代替として実施した。

- ①ねらい 理科室より出火、北風にあおられ燃え広がるおそれあり、避難経路を確認し、安全に避難する。

- ②指導内容 新年度になり、新しい教室からの避難経路を確認する。口を閉じて、担任の指示をしっかりと聞く。

(3) 第2回避難訓練 8月28日（金）5校時実施

以下の内容で実施予定だったが、感染症対策のため中止とした。例年は以下のように行っている。

- ①ねらい
- ・緊急地震速報を聞き、すぐに避難体制をとることができる。
 - ・震度5弱以上の地震が発生。揺れが続く恐れがあることから、建物の倒壊などに気をつけて校庭に安全に避難する。
- ②指導内容
- ・緊急地震速報を聞き、揺れに対応できる姿勢をとる。
 - ・自分の身を守るために帽子などを身につける。
 - ・放送を聞き、安全な経路を通して校庭に避難する。

(4) 引き渡し訓練 8月28日（金）避難訓練終了後実施

例年第2回避難訓練の後に行っている。本年度は高温の気象警報が出されたという設定で教室での引き渡し訓練を行う予定を立てたが、感染症対策のため中止とした。例年は地震の想定で以下のように行っている。

- ①ねらい 地震災害等の際に安全に下校するための引き渡し方法を保護者と共に確認する。
- ②指導内容 各教室から保護者への引き渡しが必要になったとの想定。前年度は体育館からの引き渡し、本年度は教室からの引き渡し、来年度は校庭からの引き渡しを行う予定。

(5) 第3回避難訓練 11月2日（月）5校時実施（例年昼休み）

本来ならば3回目の避難訓練となるので児童には日時を伝えずに行っているが、今年度は実質初めての避難訓練となるので、1回目のねらいと内容（(2)①②に記載）に準じて行った。すなわち火災の想定で各教室から校庭への避難を行った。以下は例年の想定である。

- ①ねらい 震度5弱の揺れ（緊急地震速報40秒に設定）、地震速報及び緊急放送をきちんと聞き取ることができる。
- ②指導内容 緊急地震速報を聞き、揺れに対応できる姿勢をとる。
自分の身を守る帽子などを身につける。
放送を聞き、安全な経路を通して校庭に避難する。

4 学校防災アドバイザーとのかわり

学校防災アドバイザー：本間喜子先生（信州大学学術研究・産学官連携推進機構 助教）に2度来校いただいた。

(1) 第1回 7月27日（月）9:00～10:30

①引き渡し訓練計画への助言

8月に行う訓練の計画案についてご助言いただいた。

②家庭・地域と連携した防災訓練の実施についての相談

コロナ禍で地域との話し合いの場がもてていない現状などを伝えた。

③備蓄についての相談

市や地域で備蓄しているものもあるので、それらと情報交換しながら必要なものをそろえていきたい。市として防災倉庫に備蓄してあるものがある。学校に必要な

ものはどんなものか検討が必要。食品や水ならば、誰のためのものか想定しておくことが必要。児童が学校にいるときに災害が起きたのならば、帰宅できない児童へ配付することになる。

これまでの事例からは、氷砂糖や防寒シートが役立ったという話があった。

④校内施設を回りながら現地指導

過去のご指導を踏まえ改善してきているが、行き届いていない部分など再度ご指導いただいた。

(2)第2回 8月28日(金)職員研修会

本来は同日実施の引き渡し訓練も参観いただく予定であったが、訓練は中止となった。職員研修会のみ行いご講演いただいた。

演題「学校が避難所になるとき」の内容メモより

- ①昨今の頻度を考えれば、生きている間に1回は災害が起こると考えた方が良い。
- ②市が出している防災マップを見ておき、災害時に在校していた場合、待機させる児童はどこの地区か、帰宅させてもよい児童はどの地区かを把握しておく必要がある。
- ③引き渡し時に自宅までの帰路は安全かどうか、児童・保護者と共に学校も把握しておく。
- ④学校が避難所になる準備として、地域・行政との事前協議を行っておくのが良い。本校は避難場所であり、災害直後の避難は基本的にできないことを事前に地域に把握しておいてもらいたい。そのためにも地域との連携を日頃から進めておきたい。
- ⑤学校が避難所になるまでの事前準備、避難所になった際の運用面、学校再開までに必要な手順について概要を伺った。

5 今後の課題

- (1)今年度は新型コロナウイルス感染症の関係で様々な制約があった。地域との懇談会が中止になったり、保護者が来校する機会が減ったりし、地域と意思疎通する機会が乏しかった。本年度は地域との連携が思うように進められなかったので、次年度は機会をつくり災害に対する関心を切らさないようにしていきたい。
- (2)学校防災アドバイザーの話を全職員で聞けたことはよかった。学校の教育計画の中に位置づけていくには全職員の関心を高めていくことが大切である。次年度も研修の機会をとりたい。
- (3)ショート避難訓練など教育計画に位置づけ、児童や教職員の防災意識を高めていきたい。

6 まとめ

日本各地で毎年のように災害が起きている。本間先生の話に「生きている間に1度は災害に遭う」とあったように、この地でもいつ起きるとも限らない。そのための準備をしていきたい。

(文責 教頭 雪入哲也)

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取り組みについて

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

安曇野市立豊科北小学校

1 はじめに

本校は、糸魚川ー静岡構造線の外縁に位置し、内陸型地震の発生確率が極めて高い場所に立地している。そのために、より実践的で効果的な避難訓練が要求され、児童一人ひとりが自分の身は自分で守る意識を育てることが急務となっている。

昨年度は、一つの学級を抽出し（４年生）緊急時における行動の仕方について考える防災学習に取り組みアドバイスをいただいた。

本年度は、新たにE S Dの視点を取り入れた防災学習を実施した。昨年度防災アドバイザーから助言をいただいた学年（現５学年）で本校初となる防災キャンプを実施した。本校が避難所になった場合を想定し１泊２日の日程で行った。

防災キャンプでは、日本赤十字協会長野支部にご協力いただき、避難所開設ゲームを実施したり、地域の方に協力いただき炊き出し訓練を行ったり、体育館に避難所を児童自らの手で設営したりしながら、緊急時に児童自らが主体的に考え、判断していく力をつけることを目指した。

2 安曇野市立豊科北小学校の防災体制について（概要）

毎年「学校防災計画」の見直しをするとともに、年度初めに「学校防護団」「避難経路図」「休憩時避難誘導分担図」の確認と掲示を行い、教職員への周知徹底を図ってきた。

3 年３回の避難訓練について

(1) 第１回避難訓練（４月中止）

授業中の火災を想定して行い、避難経路の確認と安全な避難の仕方を身につける予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

(2) 引き渡し訓練（５月中止）

災害等緊急時に、保護者に引き取りに来てもらう必要がある場合の引き渡し方を身につける予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

(3) 第２回避難訓練（８月３１日実施）

授業中の地震とそれにとまなう火災を想定して行い、地震や火災の際の安全な避難の仕方を身につける予定であったが、３密を避けるため、各学級ごとに避難経路の

確認を中心に実施した。

(4) 第3回避難訓練（11月11日実施）

児童に訓練の予告をせず、休み時間の火災を想定して行うことで、避難指示の放送を聞き、自分で判断して安全な避難経路を通り避難する方法を経験する。緊急放送を聞くところまでを行う事前訓練を実施することで、放送を聞くことに重点を置くとともに、個々で落ち着いて対応できるよう配慮をする。緊急地震速報受信システムの地震到達秒数を0秒で実施した。

4 防災学習（防災キャンプ）の実施

(1) 日時 10月2日（金）・3日（土）

(2) 実施学年 5学年（男子48名 女子43名 計91名）

(3) 防災学習の概要

①ねらい

- ・災害時における自助と共助の考え方や避難所における生活での課題について、体験学習を通して理解を深める。
- ・友だちとの協力の大切さを感じたり、避難所での共同生活に必要なルール（時間を守る・自分勝手な行動をしないなど）を学んだりする。
- ・計画・実行・反省を通して自主的・自律的な態度を育てる。

(4) 防災学習の概要（学校ホームページより抜粋）

①1日目午前中



防災キャンプが始まりました。1日目午前中は、日本赤十字協会長野支部から堀込先生と有賀先生を外部講師としてお迎えし、防災教育プログラムを体験しました。

教育プログラムの始めに、講師の堀込先生から「気づき→考え→実行する」ことの大切さについて話がありました。

プログラムの内容は、6～7人グループに分かれて体験する避難所開設ゲームです。最初に受付場所、救護の場所、炊き出しの場所等どこに設置をするかを話し合い模造紙に書かれた見取り図の上書き込んでいきます。



準備ができたところでいよいよ避難所が開設されます。次に、堀込先生から、どんな家族が避難所に来たかが示されていきます。かぜをひいている人、ペットを連れてきている家族、赤ちゃん

んが家族、お年寄りといっしょの家族等、様々な状況の家族がやってきます。子どもたちはその家族の状況に合わせてどこに避難していただければいいのかを考えていきました。

仮想の中での設定ですが、避難所を自分たちで考えて立ち上げるという経験をした子どもたち。このような経験を通して防災の意識が高まり、いざというときに役立てばいいなと思いました。明日は防災キャンプ1日目午後の活動についてご紹介します。

②1日目午後



1日目午後は、チームに分かれた活動が中心になりました。かまどチームの様子について紹介します。

かまどチームは、ブロックを使ったかまどを工夫して作ったり、防災ベンチのかまどを使ったりして火を起こしていきました。この防災ベンチですが、50周年記念事業の一環として応募した県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して購入したものです。

今回、踏入地区の区長さんをはじめ、地域の方々にもご参加いただき、子どもたちといっしょに防災学習に取り組んでいただきました。今後の地域防災の取り組みにつながってほしいなと思いました。

③1日日夜

今回は住チームの活動の様子を紹介します。

避難所で大切になってくるのが居住空間です。プライバシーを守り、少しでも快適に過ごせるようICTを活用して調べたり、友だちと工夫しあったりしてきた子どもたちです。体育館やプレールームの床に段ボールを巧みに利用したオリジナルの居住空間が広がりました。

災害を想定しての取り組みですが、同時に子どもたちは段ボールの空間作りを楽しみながら行っていました。



④ 2 日目



今回は 2 日目の様子を紹介します。

一晩体育館やプレールームで友だちといっしょに過ごした子どもたちは、朝 6 時に起床しました。明けたばかりの空は、澄んだ空気とともに青空が見えています。起床後は健康チームの子どもたちの呼びかけで校庭を使って軽いランニングを行いました。

一方食事チームは、調理室で朝食作りを始めました。子どもたちは避難所の非常食について調べていき、ご飯はアルファ米を使用しました。このアルファ米はお米の入ったパックに熱湯を入れれば 15 分で食べられるようになります。味噌汁ときゅうりの浅漬は手作りです。一人一個のふりかけを用意しました。

導線が確保でき食事をスムーズに受け取れるということで、調理室と理科室の間の廊下を食事配布場所としました。

食事の時間になると、ランニングをしてお腹をすかせた子どもたちがやってきて食事を受け取っていました。みんなでおいしくいただくことができました。



5 防災学習（総合的な学習の時間授業研究会）の実施

- (1) 日 時 11月30日（月） 3校時
- (2) 実施学年 5年1組（男子16名 女子14名 計30名） 田中 真仁教諭
- (3) 講 師
 防災アドバイザー 信州大学教育学術研究院教育学系 島田 英昭 先生
- (4) 授業の概要

① ねらい

防災キャンプを体験し、自分が追究したい防災グッズについて調べたり作ったりした子どもたちが、防災グッズの使い方や作り方について発表したり、防災マスターの視点に合っているか話し合ったりすることを通して、災害時における様々な立場の人への思いをもつことができる。

② 授業の様子

導入の場面

T：(防災マスター) の2つの視点は何ですか。

C：自助。

C：共助。

T：今日はどっちが大事ですか。

C：共助。

T：今日は、共助の視点で考えましょう。

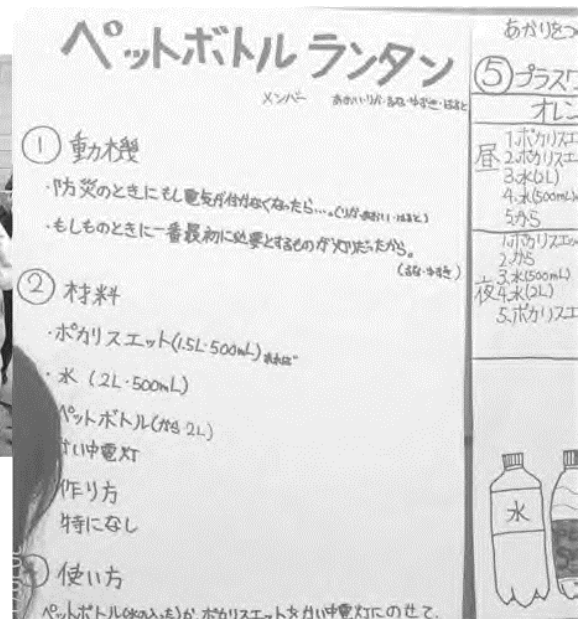
(板書に学習課題「防災マスターの「共助」の視点で考えよう。」を位置づける)



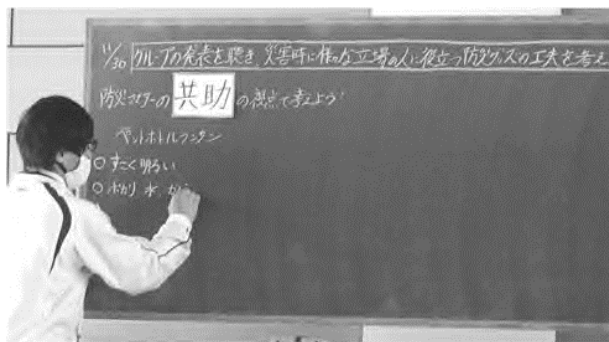
展開の場面 (チーム発表)

発表する3チーム<ペットボトルランタン、タンボールベット、ラップ活用法>と聴く3チームに分かれてグッズの材料や作り方、使い方を中心に伝えた。





展開の場面（全体追究）



T：各チームの良さや改善点をみんな
でシェアしましょう。まずはペットボ
トルランタンチームはどうでしたか。

C：すごく明るくてすごくいいと思っ
た。

C：水とポカリを使い分けているとこ
ろがよかった。

C：暗い中でも明るかった。

T：ダンボールベットチームはどうでしたか。

C：つぶれなさそうで安心感がある。

C：頑丈なつくりになっていた。

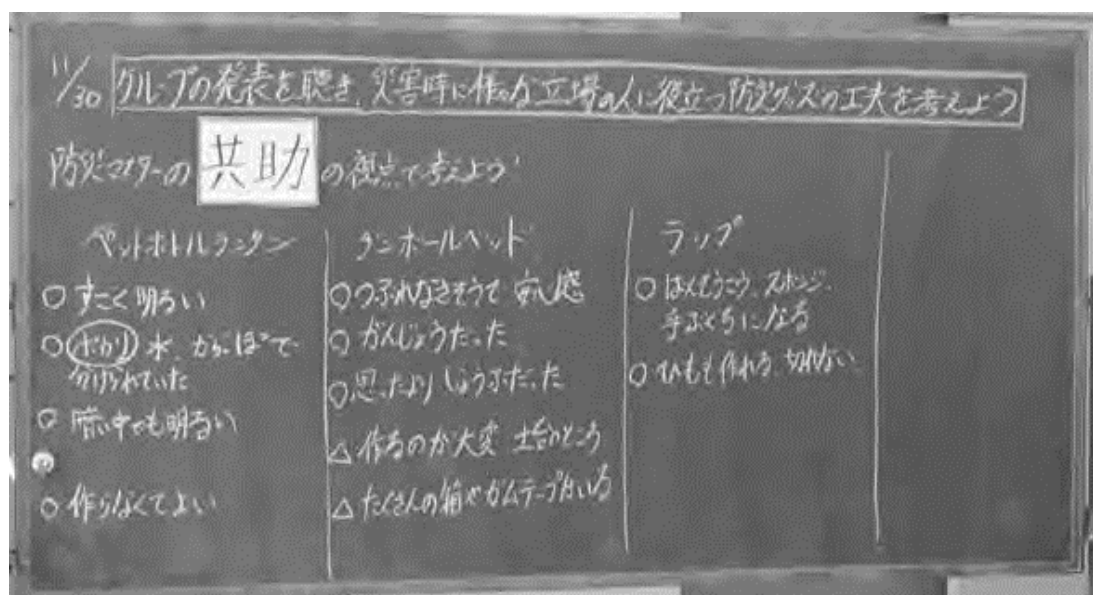
T：改善点はありますか。

C：作るのが大変だ。

C：たくさんのガムテープとダンボールが必要になってくる。

T：どんな人が使えるといいかな。

C：怪我をした人やお年寄りの方が使えるといい。



防災キャンプの体験をもとに災害時に役に立つ防災グッズについて調べたり、作ったりしてきた子どもたち。授業では、自分たちで作った防災グッズを発表し、その良さや共助の視点での意見をもらった。

本時では共助の視点の意見は多くでなかったが、発表の様子や工夫して自分たちで作ったグッズを見ていると、調べたり、作ったりする過程で共助のことを考えながら作っていったのだろうと感じた。

6 学校防災アドバイザーから受けた指導

- ・ 防災の場を通して上手に道具を使っていた。
- ・ 災害は適応だと思う。普段と違う状況で身近な道具を使っている。
- ・ ICT があるともっとおもしろくなると感じた。
- ・ 「共助」は子どもたちにけっこう響いていた。「ダンボールベットが1個の時どうするの」など、キーワードをあげている子どもがいた。
- ・ 自分から意見を言うなど「自立」がとても大事。
- ・ 防災学習に ICT をどんどん使って行って欲しい。今日のプレゼンも ICT を使うといい。
- ・ 防災→タブレットを使って何ができるかを今後考えて行って欲しい。

7 事業の成果及び今後の課題

- (1) 防災学習の授業を通して的確にアドバイスをいただき、防災学習の必要性や改善点が明らかになった。
- (2) 毎年入れ替わる職員に対して、定期的に、システムの理解を進める研修を設ける

必要がある。

- (3) 緊急時に、児童自らが主体的に考え、判断し、避難できるような力が必要となる。本年度は5年生で防災キャンプや防災学習についての研究授業を行った。継続して防災学習を進めていくために、カリキュラムの一つとして防災学習を位置づけていきたい。今後、本校ではICTの整備が進む予定である。学校防災アドバイザーの島田先生から助言していただいた「タブレットを生かした防災」についても取り組んでいきたい。

(文責 教頭 菟本直樹)

豊科東小学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取り組みについて

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

安曇野市立豊科東小学校

1 はじめに

安曇野市立豊科東小学校は、安曇野市の東に位置し、児童数179名の安曇野市で二番目に小さな学校である。学区の東には光城山をはじめとする筑摩山地が連なり、西には犀川が流れ、自然豊かな環境である。しかし地震や台風に見舞われると、土砂崩落や河川はん濫の危険を抱える場所に立地している。

2 安曇野市立豊科東小学校の防災体制について

本校は犀川が氾濫した際、0.5～3.0m程度の浸水が予想されているため、消防計画の第6章に水防対策が記されている。

防災計画より（抜粋）

第6章 水 防 対 策

（洪水に備えての準備品）

第21条 第18条の震災に係る準備品に加えて、洪水に備え以下の品目を常に使用または持ち出せるよう準備しておき、定期的に点検を行う。

活動の区分	使用する設備または資機材
情報収集・伝達	テレビ、ラジオ、ファックス、携帯電話、懐中電灯、電池
避難誘導	児童・職員名簿、誘導旗（棒）、拡声器、電池

（洪水時の活動）

第22条 洪水時においては、次の防災体制をとる。

体 制	体制確立の判断時期	活動内容	対応要員
注意体制	はん濫注意情報	情報収集、関係職員招集	情報伝達係
警戒体制	はん濫警戒情報 避難準備情報	情報収集、資機材準備、 要配慮児童の避難誘導	情報伝達係 避難誘導係
非常体制	はん濫危険情報 避難勧告または避難指示	学校全体の避難誘導	避難誘導係

（洪水時の避難誘導）

第23条 洪水時の避難場所、避難経路、避難誘導方法については、下記に従う。

（1）避難場所・経路

- ・短時間で校舎東側に出られる経路を通って校舎外に出た後、田沢駅前交差点を經由して田沢地区公民館に避難する。
- ・上記避難場所への避難が困難な場合には、一時避難場所として北校舎3階へ避難する。

(2) 避難誘導方法

- ・施設外の避難場所に誘導するときは避難場所までの順路、道路等について予め説明する。
- ・避難する際は、原則として車両等を使用せず徒歩とする。

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 水災害による引渡し訓練について

昨今の気象状況に鑑み大雨が頻発する可能性があることから、本校消防計画第6章水防対策を全職員で共通認識することを目的に、犀川の氾濫を想定した児童の保護者引渡し訓練を実施した。そして、教職員・児童・保護者の動きを確認するとともに課題を洗い出そうと考えた。

引渡し訓練前に気象庁職員、千曲川河川事務所職員、市教委担当職員にお越しいただき、地域の状況に応じた引渡し訓練の計画について相談、立案の補助をしていただいた。

(2) 引渡し訓練の参観と教職員向け水防の講演会

11月6日(金)水災害想定引渡し訓練を実施し、その様子を気象庁職員の方々に見ていただいた。引き続き本校職員と市内小中学校安全担当教員を対象に「防災気象情報の利活用について」と題した講演会を実施していただいた。

4 事業の成果及び今後の課題

(1) 引渡し訓練の詳細

時間	内容	留意点
4校時終了までに	引渡し訓練準備	・連絡帳の記入等済ませておく。
清掃終了まで	(通常日課)	・「緊急時児童引き渡しカード」を準備しておく。
13:45～14:15	学級指導(防災教育)	・各学級で実施。

担任の指導(例)

「今日は、大雨が降って犀川があふれる危険性があるときの引き渡し訓練です。大雨が降り犀川の水が多くなるとどんな危険があるかのお勉強をします」

1年…いのちをまもるには

2年…そのとき、どうする？

3年…自然災害とともに生きる ～水害～

4年…大雨が降り続いたら

5・6年…自然災害から命と暮らしを守る

※ すべてNHK for school

14:00	オクレンジャー送信①	(教頭)
14:15	放送①	(教頭)

「訓練、訓練。大雨が続き、犀川が避難判断水位に近づきそうなため、本日は授業を打ち切り、14時30分より保護者の方にお迎えに来ていただきます。児童の皆さんは担任の先生のお話を聞き、帰りの準備を始めてください(下線部繰り返し)。以上」

14:15～14:25	帰りの支度等 ・1年は音楽室、2年は3・4年学年室に行く。 ・担任以外はそれぞれの分担に立つ。	・トイレを済ませ、低学年は上履きを下駄箱に入れ、下足をビニール袋に入れて持つ。 ・高学年昇降口にスリッパ用意・校庭東西入口の開放・県道の入り口・学校入り口・体育館東側通路・中庭(理科室横)
-------------	---	---

14:25	オクレンジャー送信②	(教頭)
14:30	放送②	(教頭)
「訓練、訓練。ただ今より保護者への児童引き渡しを始めます。担任の先生は確実に引き渡しをお願いいたします（下線部繰り返し）。以上」		
14:30～15:30	・引き渡し。車を校庭に停め、高学年昇降口から入る。上の学年から子どもを引き取ってもらう。	・保護者の引き取りは下記の通り。 ・学級担任引渡し手順 ① 引き取りに来た方にドア入口で児童の氏名と児童との関係を告げてもらう。 ② 担任が児童を呼び、児童と引き取りに来た方の関係を確認する。 ③ 確認したら、引き取りに来ていただいた方にサインをしてもらい、学級担任が引き取り時間を記録する（鉛筆で）。 ④ 記録が終わったら担任が児童を引き渡す。
15:35	・全員の引き渡しが終わったら内線 2 2 に連絡する 放送③	(教頭)
「引き渡しの時間が終わりました。残った児童は地区ごとにまとまって、気を付けて帰りましょう（下線部繰り返し）。		
	・引き渡しのなかった児童は方面ごとまとまって帰る。	・学級担任が高学年昇降口に連れて行き、およその地区別に並べて帰すようにする（実際の場合は田沢公民館に移動）。 ・児童クラブ利用の児童は、高学年昇降口に集合し、まとまって児童クラブに行く（辻引率）。

(2) オクレンジャー送信文書

・ 14:00 配信①

【訓練】児童の引き渡しについて

大雨が続き、犀川が避難判断水位に近づきそうなため、授業を打ち切り、14時30分より児童の引き渡しを行います。詳細は後ほどご連絡します。児童が校舎内を移動するため、14:30より前には校地内に車を乗り入れないようにしてください。

・ 14:25 配信②

【訓練】児童の引き取りについて（お願い）

14時30分より児童の引き渡しを始めます。車で引き取りに来る場合、アルプス・大原・徳治郎・地区外は14:30～14:45、桜坂・光は14:50～15:05、田沢・小瀬幅は15:10～15:25の間でお願いします。車を校庭に駐車し、高学年からそれぞれの教室まで引き取りに行ってください。校地内は一方通行になっています。速度を落とし、くれぐれも事故のないようにご注意ください。徒歩による引き取りは14:30～15:30の間にお越しく下さい。

(3) 職員の反省

① 成果

- ・保護者が引取りの時間を守ってくれたため、スムーズに引渡すことができた。
- ・引渡しがなかった児童は全校で10名程度であった。

② 課題

- ・洪水が予想されているのに、田沢橋を通ってお迎えに来てもらうことは実際には危険なのではないか。徒歩によるお迎えも現実的ではないので今後検討が必要。
- ・地区ごとにお迎えの時間を区切ってもらったが、実際に一刻を争うような時は難しいだろう。車の入り口と出口が別になり、スムーズに流れるような方法を探りたい。
- ・今回は校庭に車を停めてもらったが、低い場所にあるため大雨の際は水がつき、使用できないことも考えられる。

(4) 保護者アンケートより

① 集計数→101(76%)

② 地区と引き取り方法

方法	桜坂	光	小瀬幅	田沢	アルプス	徳治郎	大原	大口沢	地区外
車	15	14	7	4	11	8	3	1	3
徒歩	11	2	3	3	6	3	0	0	3

○ 車→63(62%) ○ 徒歩→18(18%)

③ 時期

○ よい→90人(89%)

④ 想定

○ よい→81人(80%)

⑤ 自由記述より

- ・課題はあるかもしれないが、東小の立地を考慮した今回の訓練の想定は、例年通りではないところが大変よかった。
- ・危険レベルのもっと早い段階でないと、今回の形式の引き取りは無理ではないか。実際の水害時となれば、親の状況如何ではすぐに迎えに来られるとは限らない。周囲の交通状況も全く想定できず、今回のルートを守るのは難しい。
- ・実際に氾濫がおきてしまったら、自家用車でも徒歩でも危険であり、どの方法がいいかはなと思う。
- ・どの学年も静かに待機できていて感心した。
- ・実際は自家用車での引渡しは厳しいと思うが、今回は可能にさせていただいて正直ありがたかった。コロナ禍の中、地区別にしたり一方通行にしたり、いろいろ考えていただきありがとうございます。
- ・引渡し訓練、ありがとうございました。近年の豪雨災害をテレビなどで見ると、本当に他人ごとではないなあと思っていたので、今回の訓練でいろいろなことを考えることができた。一つ不安なことは、やはりいざ氾濫となった時に、犀川に近い東小に子どもたちを留めておいて大丈夫だろうかということ。上川手認定こども園やJAなど、いざという時に避難できる場所を考えておくことも必要かと思う。

(5) まとめ

今回初めて水災害を想定した引渡し訓練ができ、課題が明確になった。市との連携の重要さも認識できた。今後に生かしていきたい。(文責 教頭 河合ちほえ)

豊科南中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取り組みについて

— 学校防災アドバイザー派遣・引き渡し訓練計画・実施の事前研修 —

安曇野市立豊科南中学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南中学校は安曇野市の中央に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、学区に拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。豊科中学校が豊科南中学校と豊科北中学校に分かれ、本校は昭和60年に開校した。生徒数311名、各学年3学級、特別支援学級3学級、こども病院の院内学級1学級を含め全13学級の中規模校である。校舎は南と北に1棟ずつであり、1階と2階にそれぞれの校舎をつなぐ渡り廊下が設置されている。北校舎には校庭側（北側）に非常階段があり、すぐに屋外に出られるような構造になっている。

学区内に山や大きな河川があるものの、職員も生徒も防災（特に水害）に対する意識が低い。防災マップの見直しにより、本校が犀川と万水川の二つの河川の浸水区域に指定されたことを意識させ、自分の身を自分で守る意識を高め、緊急時の避難行動が自発的にできる生徒を育てたい。本年度は、コロナ禍の影響で、昨年設置された緊急地震速報受信システムを使っ

2 本年度実施した避難訓練

(1) 第1回避難訓練（臨時休校のため未実施）

- ①当初の実施予定日：5月7日（木）
- ②実施内容：避難経路の確認・非常事態への対応 ※放送による

(2) 第2回避難訓練

- ①実施日：9月1日（火）
- ②実施内容：緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練と地域防災学習
 - ア 新型コロナウイルス感染拡大防止により全校で集まらないため、1年のみ校庭へ避難。
 - イ 午後から区長さんや地域の防災リーダーによる地域の防災についての学習会を行った。（防災倉庫の見学・防災マップを使った学習など）



(3) 第3回避難訓練

- ①実施日 : 11月4日(水)
- ②実施内容: 避難経路の確認・非常事態への対応
 - ア 訓練の意義や緊急地震速報装置について各学級で指導
 - イ 緊急地震速報システムの作動 ウ 避難経路の安全確認 ・避難指示
 - エ 生徒と職員の人員確認 オ 防護団活動(係活動の確認)

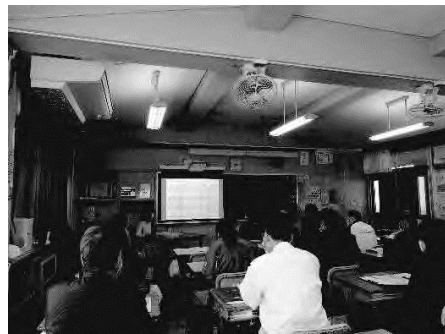
3 本校の避難訓練からの課題

防災マップの改正により、本校は犀川と万水川の浸水想定区域の学校となった。安曇野市作成水防タイムラインに沿った行動を考えると、「氾濫注意情報」が出た段階で保護者への引き渡しを行うことになる。本校は今まで地震や火災を想定した避難訓練は行ってきたが、水害想定での避難訓練や引き渡し訓練を行っていない。来年度からは、水害想定での引き渡し訓練を行う必要がある。

4 学校防災アドバイザーの関わり

- (1) 水害避難・引き渡し訓練のための職員研修(事前打ち合わせ)
 - ① 実施日 10月1日(木) 15:30～
 - ② 指導・助言
 - ア 保護者が引き取りに来たときの駐車場の確保と動線の確認
 - イ 垂直避難・水平避難についての違い
垂直避難の場合、1階が浸水するとトイレが使用できない。
 - ウ 引き渡しを連絡するタイミング
氾濫警戒情報で引き渡しでは間に合わない。
 - エ 引き渡しカードの活用
- (2) 水害避難・引き渡し訓練のための職員研修
 - ① 実施日 11月25日(水) 15:30～16:00
 - ② 指導・助言
 - ア 本年7月8日に安曇野市で大雨、明科地域では浸水被害があった。6校が臨時休校となり、中学校でも急遽引き渡しを行った。このことから、今後は中学校でも引き渡しを行う必要が出てきている。
 - イ 平成31年3月に「避難勧告等に関するガイドライン」が改正されているので、確認してほしい。
 - ウ 警戒レベル4は「全員避難」この段階での引き渡しは危険。水防タイムラインに従って、早めの引き渡しを行う。
 - エ 引き渡し判断の段階を事前に決めて、地域や保護者と共有する。
 - オ 引き渡しの方法を保護者と事前に共有する。
 - カ 車は、できる限り一方通行で誘導
 - キ 学校に避難してくる住民との動線を区別しておく。
 - ク 駐車スペースを避難者と引き渡し後の帰宅者で区別して誘導する。近くの商業施設などを予め駐車場として借りることも検討する。

- ケ 引き渡し場所はそのときの状況を見て、臨機応変に決めて連絡する。
- コ 引き渡し前に、通学路の情報を収集して、安全確認をしてから実施。
- サ 引き渡しカードの使い勝手を良くする。
- シ 水が膝上まできている場合は、外への避難は危険



5 事業の成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 学校の立地場所から想定される水害の危険性を職員が意識することができた。
- ② 防災アドバイザーの助言から、生徒引き渡しの具体的なイメージと配慮すべきことを職員全体で共有することができた。
- ③ 地域防災学習から、生徒自身が地域の方々から地域防災の仕組みを教わることができ、自分は地域に何ができるのかを主体的に考えることができた。

(2) 課題

- ① 小学校と同日に合同引き渡し訓練ができるように小学校と連携して計画を立案する。
- ② 校内での引き渡し手順をマニュアル化し、保護者と共有する。
- ③ 地域と連携した防災学習や防災訓練をさらに進め、生徒の地域防災への意識を高める。

(文責 教頭 中川由香里)

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

— 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施と 引き渡し訓練の実施をめざして —

安曇野市立豊科北中学校

1 はじめに

本校は、安曇野市の中心に位置し生徒数 356 名の学校である。美しい北アルプスを望み田園風景が広がる「安曇野らしい」地域に立地している。一方で、学区内には安曇野インターチェンジ・豊科駅・田沢駅があり、「安曇野の玄関」の地域でもある。保護者には本校の卒業生が多く含まれているが、都市部から移り住んできた保護者も多い。従って、共働きのご家庭が多く、災害訓練における引き渡し訓練はこれまで実施できていない。

昨年度から本事業に参画させていただき、学校防災アドバイザーの本間先生はじめ多くの方からご指導・ご助言をいただきながら、防災体制の構築や生徒・教職員の防災意識の向上を図ってきた。

今年度 7 月 8 日（水）の集中豪雨により、臨時休校の措置をとった。この時、朝の部活動に参加するために約 1 / 3 の生徒が既に登校しており、保護者へ引き渡しを行わざるを得ない状況となった。初めてのことに戸惑いながら、職員全員で知恵を出し合い対応することができた。この経験から、引き渡し訓練の必要性を職員間で共有することができた。

そこで、今年度は「緊急地震速報受信システム」を活用した避難訓練を実施するとともに、災害時の「引き渡し」に向けた準備を進めていきたいと考えた。

2 防災体制について

(1) 防護団組織

係 名（主な職員）	主 な 任 務
本 部（校長・教頭）	全体指導、指示伝達、状況報告
通 報（教頭・主査）	対外関係の連絡、受付、出張等による欠員補充
避 難（学年主任）	安全な場所への避難誘導、人員確認
消 火（学年副主任）	初期消火、消火栓操作
警 備（生徒指導主事）	生徒の安全避難点検、搬出物の警備と保全
搬 出	校長室、事務室、職員室、保健室等の重要書類等の搬出
救 護（養護教諭）	救急の処置、けが人や病人の手当

(2) 避難訓練実施状況

避難訓練は、これまで年2回行ってきた。今年度は、1回目は従来どおり行い、2回目は「緊急地震速報受信システム」を活用し、学校防災アドバイザーの指導もいただく方法に変更して行った。さらに、2回目の反省を活かしショート訓練を行った。

3 第1回避難訓練（火災を想定）

(1) 日 時 令和2年6月1日（月）11：50～12：40

(2) 参 観 者：安曇野市教育委員会

担当：大倉雅俊様

(3) 内 容

- ① 事前指導：避難経路・約束事の確認
- ② 火災報知器感知：通報訓練・放送による指示（聞き取り訓練）
- ③ 避 難：1年のみ校庭へ避難・点呼・報告（2，3年は廊下へ整列まで）
- ④ 講 評：校長のお話
- ⑤ 事後指導：振り返り



第1回避難訓練（1年のみ避難）

4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練①

(1) 日 時 令和2年9月2日（水）12：00～12：30

(2) 参観者： 安曇野市教育委員会 教育指導員：古幡栄一 様

安曇野市教育委員会 大倉雅俊 様

(3) 職員研修：事前の係案審議とともに、次のような研修を行った。

- ① 学校安全総合支援事業の概要と今後の計画
- ② 緊急地震速報受信システムについて
- ③ 事前指導の内容について

ア約束事や避難経路等は火災時と同じ。但し、放送の内容によっては、避難経路を変更する必要がある。

イ速報音や放送が聞こえたら、机の下に入るなど、頭部を守る動きを素早くする。

ウ動きを止め、放送にしっかりと耳を傾け内容を聞き取る。

(4) 内 容

- ① 事前指導：約束事の確認・緊急地震速報音や緊急放送を聴いたときの対応
- ② 緊急地震速報放送：放送による指示（聞き取り訓練）
- ③ 避 難：校庭へ避難・点呼・報告
- ④ 講 評：校長のお話
- ⑤ 事後指導：振り返り
- ⑥ 課 題

- ・速報音が鳴っても、すぐに行動できない生徒が目立った。
- ・生徒が、速報音に慣れていく



学年ごと校庭の違う場所へ避難する生徒

必要がある。

5 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練②



ショート訓練に取り組む生徒

(1) 日 時：令和2年9月30日（水）14：50～

(2) 参観者：信州大学学術研究・産学官連携推進機構

助教 本間喜子先生

安曇野市教育委員会 大倉雅俊 様

(3) 内 容：緊急地震速報放送

→生徒は机の下などに入り頭部を守る行動をする。

→振り返り

6 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 令和2年9月16日（水）10：00～11：00

①第2回避難訓練反省について（係職員への指導）

②職員研修打合せ

(2) 令和2年9月30日（水）14：30～

①校内の巡視を行い、防災安全上の配慮や対策が必要なことを、次のようにご指摘いただいた。

②ショート訓練視察

③職員研修講師

職員研修会で、全職員を対象に次のようなご指導をいただいた。



ショート訓練を参観される本間先生

ア 避難訓練の反省について

- ・地震直後に避難するのではなく、避難経路が確保されているかを把握した上で避難の指示を出す方向で良いが、その時の状況を捉え総合的に判断できることが大切である。
- ・避難経路は、まず安全な場所に出ること（建物から出ること）を優先したい。その結果、避難場所までの距離が遠くなるのは仕方がない。
- ・速報音や避難指示の音が小さかったという反省があるが、今後放送機器が故障したことを想定した訓練も必要である。

イ 施設整備の視点

- ・安心安全な学校づくりは、何よりも最優先。
- ・激しい揺れを想定し、周りにいる者が怪我をしないようにする。
- ・突っ張り棒などを利用し、棚などの固定を確実にしたい。

ウ ショート訓練について

- ・速報音に対して素早く無言で反応できている生徒が多かった。
- ・「Drop!：姿勢を低く」[Cover!：頭を守る][Hold on:揺れが収まるまでじっとする]を大切に、繰り返し訓練を行って欲しい。机の下などに潜ったときに机の脚をしっかり持つことが大切である。

エ 災害時引き渡し実施計画について

- ・大雨によって引き渡しが必要になる場合は、警報や氾濫情報を的確に把握することが大切である。
- ・保護者にもハザードマップを確認していただくようお願いしていく。
- ・学年や学級の確認の方法で苦労している学校が多い。様々な状況を想定し、それぞれの場合について確認方法を考えていきたい。
- ・小学校と連携して引き渡し訓練が実施できるとよい。先に中学校に迎えに来てもらい、その後小学校へ向けてもらう方法が良い。

7 事業の成果及び今後の課題

- (1) コロナ禍ではあったが、避難訓練2回とショート訓練1回実施できた。特に、第2回避難訓練で明らかになった課題を克服するために、ショート訓練を実施し成果を得ることができた。
- (2) 避難訓練の反省で出された課題について、本間先生から適切なお指導をいただき、優先すべき内容が明らかになってきている。
- (3) 今年度7月の集中豪雨の際に保護者への引き渡しを行ったことで、これまで進んでいなかった「引き渡しの計画づくり」への必要感を職員間で共有することができた。今後、様々な状況を想定しながら、「引き渡しの計画づくり」と「引き渡し訓練の計画づくり」を進めていきたい。
- (4) 小学校との連携の必要性についても、本間先生からご指導いただいた。引き渡し訓練を同時に開催するなど、一層連携を図っていきたい。
- (5) 今年度、1年生が総合的な学習の時間のテーマを「地域」とし、「防災」について追究する講座ができた。その学びの姿から、地域の防災のために中学生にできることや地域と学校の連携のあり方を考えていく必要があると感じた。

(文責 教頭 奥原竜司)

**穂高西小学校における
防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について**
— 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施について —

安曇野市立穂高西小学校

1 はじめに

安曇野市立穂高西小学校は、安曇野市の北西、田園地帯に立地している児童数 393 名の学校である。学区は、松本から大町につながる国道 147 号線の西側から国営アルプス安曇野公園がある牧地区にまたがっている。近年、安曇野市は大きな地震に見舞われてはいないが、平成 23 年には隣接する松本市を震源とした震度 5 強の地震が、平成 26 年には白馬村を震源とした震度 6 弱の地震が発生している。安曇野市全体が、糸魚川静岡構造線上に位置していることから、今後 30 年以内に Mj8 程度の地震が発生する可能性は 14%といわれている。

学校周辺の交通事情を鑑みると、保護者や外来者の駐車スペースが十分に確保できないことが懸念される。また、学校西側を走る大型農道は交通量が多い一方で、学校周囲の道は狭く、さらに保育園が隣接しているため、災害時は交通渋滞が予想される。

2 安曇野市立穂高西小学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画（消防計画）」「危機管理マニュアル」によって、災害時の防災に備えている。防災組織は、学校長を本部長、教頭を副本部長として、総務、情報伝達、警備巡視、避難誘導、救護、搬出、消火の 7 つの係を編制し、全職員で組織している。また、年度当初の安全防災教育係の計画に則って、年間で 3 回の避難訓練を実施している。これに加えて、保護者の協力を得て、児童引き渡し訓練を実施している。また、今年度も、県の「学校防災アドバイザー派遣活用事業」により、信州大学教育学部教授 廣内大助先生に 2 回来校いただき、防災対策についてご指導いただいている。

3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

（1）緊急地震速報受信機設置に関わる取組 ～年に数回シェイクアウト訓練を実施～

年 3 回ある避難訓練を機会ととらえ、数日前にシェイクアウト訓練を実施するようにした。実施前には、各学級で、放送を聞いたら、素早く「危険なものから遠ざかる」「しゃがむ」「頭を守る」の 3 つの行動をとれるよう担任の事前指導を行った。そして数日後に、緊急地震速報機の訓練モードを利用して実際に放送を流して訓練を実施するという形をとった。これを、「授業時間」「休み時間」とパターンを変えて実施した。回数を重ねるごとに、緊急地震速報の警告音に対する児童の反応がよくなり、その場での素早い危機回避の対応がとれるようになってきている。

（2）緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

11 月 27 日に、緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用して、地震に備えるための無告知避難訓練を実施した。昨年度、休み時間における避難について扱ってこられなかったことをふまえ

二時間目終了後の業間の時間帯に訓練放送を全館一斉に流した。また、より実際に合わせた訓練となるよう児童だけでなく職員にも無告知とした。

評価の観点として、児童は、安全を確保する行動がとれたかどうか、揺れがおさまったあと「おはしも」の合い言葉を守って校庭に避難できたかどうか、また、職員は、児童全員を「速やかに・安全に」児童を避難させることができたかを評価の観点とした。防災アドバイザー廣内先生、市教育委員会の担当者にも実際の避難の様子を見ていただき指導を受けた。



4 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 避難訓練に向けた指導（11月4日）

① 訓練の内容について

3年間を1つのローテーションと考え、訓練内容について吟味していく必要がある。担当が変わっても一貫した訓練ができるように、今年度中に、係を中心に訓練計画を作成したい。昨年度、休み時間中の避難について学習していないのであれば、今回はぜひ想定に加えたい。

② 児童の掌握について

休み時間中には、児童はいろんな場所へ行っている。その児童を確実に避難させるために、残っている児童がいないかどうかの確認を徹底させたい。そのための方法として、確認したらチョーク等でその場所付近にチェックを入れていくことはどうか。

(2) 避難訓練後のご指導（11月27日）

① 職員の課題

- ア 取り残されている児童がいないかの確認はしていたが職員によって度合いの差がある。声がけだけだと意識を失っている児童の発見はできない。トイレでは、個室の中まで確認した方がよい。
- イ 子どもたちをすばやく避難させることを考えると「誘導する人」「確認する人」の分担を明確にしておけばどうか。

② 児童の課題

- ア 放送を聞いてよく動いていた。その場で身を守る行動をとる際、自分のまわりに危険なものはないか（窓ガラスや倒れてきそうなもの）をチェックできるとさらによい。
- イ 先生が来るまで避難せずに、その場でだまって待っている児童がいた。職員数の関係もありすべての場所に駆けつけるというのも難しいと思う。そこで、「〇〇に避難しなさい」という放送で、児童はまずは自主的に避難することを第一とし、担当場所に向かった職員が逃げ遅れた子どもの確認をする形としたい。

5 事業の成果及び今後の課題

防災アドバイザーの指導をから、数年間を視野に入れ安全対策を講じていく必要を感じた。また、実際の場合を考え、学校だけの訓練でなく近隣のこども園などとも連携した訓練（特に児童引き渡し訓練）を実施していくことも考えていきたい。

（文責 教頭 大野幸児）

**穂高南小学校における
防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について**

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

安曇野市立穂高南小学校

1 はじめに

安曇野市立穂高南小学校は、安曇野市の北西、田園地帯に立地していて、常念岳を見上げる自然豊かな安曇野平の中央に位置している。

児童数は575名で、全ての学年が3クラスごと、また特別支援学級（ひまわり学級）が6クラスで計24学級から構成されている中規模校である。広い校地を有し、1，2年生と特別支援学級2クラスが南校舎、3年生以上と特別支援学級4クラスは北校舎で生活をしている。また、バッテリー校舎のため、各学年の教室がそれぞれ独立した校舎になっている。

このようなことから、災害時には校地の至る所から児童が避難してくることが想定され、児童自身が防災教育の点から、「自ら考えて避難する」ことが大切であると考えます。

2 安曇野市立穂高西小学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画（消防計画）」「危機管理マニュアル」によって、災害時の防災に備えている。防災組織は、学校長を本部長、教頭を副本部長として、通報、児童管理、消火、救護、搬出の6つの係を編制し、全職員で組織している。また、年度当初の安全防災教育係の計画に則って、年間で3回の避難訓練を実施している。これに加えて、6月に保護者の協力を得て、児童引き渡し訓練を実施している。（今年はコロナ禍で中止）今年度は、県の「学校防災アドバイザー派遣活用事業」により、信州大学教育学部 榎原保志教授先生に2回来校いただき、防災対策についてご指導いただいた。

3 今年度実施した避難訓練（緊急地震速報システムを利用）について

(1) 第1回避難訓練 4月9日（火）2校時に実施

①ねらい 新しくかわった教室の避難経路を知り、火災が発生した場合を想定して安全に避難できる。

②指導内容 コロナ禍での訓練になり、全体で集まる避難は行わず、学年ごとの動きとなった。
火災時の避難の仕方（放送の聞き方（出火場所、避難場所の確認など）、火災の怖さ

(2) 第2回避難訓練 9月3日（木）2校時

①ねらい 緊急地震速報を聞き、児童が迅速かつ安全に所定の場所に避難できるように訓練する。また、児童の地震及び震災に対する認識を深め、防災意識を高める。

②指導内容 大地震（想定：震度5弱以上）の発生を想定し、地震が起きた直後の動き、放送の聞き方、避難の仕方について学ぶ。防災アドバイザー榊原先生、市教育委員会の担当者（大倉さん）にも実際の避難の様子を見ていただき指導を受けた。

(3) 聞き取り避難訓練 11月12日（木） 2校時の休み時間

①ねらい 緊急放送をどこでも落ち着いた状態でしっかり聞き取れるかを確かめる訓練。

(4) 第3回避難訓練 11月19日（木）給食後の休み時間中に実施

①ねらい 教室以外での避難訓練を通して、地震時（地震→火災）に自らの身を守り方や安全な避難の仕方・経路について理解を深める。

②指導内容 事前、事後指導 地震と火災への対処 校庭への避難 初期消火訓練（職員）
防災アドバイザー榊原先生、市教育委員会の担当者（大倉さん）にも、第2回目の避難訓練からの変化も含め、実際の避難の様子を見ていただき指導を受けた。

4 学校防災アドバイザーの関わり

○避難訓練時の指導（9月3日、11月19日）

☆ 緊急地震速報発報時の児童の安全確保の行動、及び避難の様子を見ていただき、今後に生かす点についてアドバイスを受けた。

【児童・職員の様子から】

○理科室（出火想定場所）の前で、状況を観察していた。職員（西沢先生）が、近くにいた児童に声をかけ指示を出し、大きな声で叫びながら本部に向かって移動をされていた。素晴らしい対応であった。

○「避難してください」の放送から9分で完了したが、安全を求めたものでもいかなものか。早い学年、クラスは2分ほどで完了し待機していた。

△マスクをしている（コロナ禍影響により）こともあるが、ハンカチを口に当てて避難する意識が必要。事前指導は？

○外（遊具近く）にいた子ども達の様子で、放送が流れたときに、滑り台の下、ジャングルジムの中で聞いていた児童がいた。その場所で、放送を聞くとき、待機するときは、周りに「倒れない物はないか」「落ちてくる物はないか」を確認したい。日頃から、児童に考えさせたいポイントである。

【大倉さん（市教委）から】

○体育館で様子を見させていただいた。迅速に放送に対応していた。ただ、放送が終了したあと、また、バスケットボールで床をつく音が聞こえた。もしかしたら、聞き取り訓練と思って、遊びを再開したかもしれない。

○「・・・以上」からの児童の動きがとても迅速でよかった。

【今後の課題・アドバイス（防災アドバイザーから）】

△避難経路は渋滞発生する場合は見直しが必要。解消したい。

○地震からの避難はガラスが割れることも踏まえて、教室での授業者はすぐにカーテンを閉める。ガラス破片が飛び散るのを防ぐ意識を持つ。



○大地震の場合、体育館脇を避難する経路は避けたい。第二避難経路（大回り）があった方がよい。
△避難訓練だけでなく防災学習を総合的な時間を使って行う学習方法もある。体育館脇を通ることになれば、何が危険か見つめることにもつながる。

○地震→火災の場合、火災発見者は大声で伝える。

また初期消火は係でなく全職員が対応にあたり、消火器の設置場所を把握する。 △想定を毎回（前年度とは違う想定で）変更して行う方向で。また、少しずつでも新しいものを取り入れて実施を。

○緊急持ち出し袋に“児童の緊急連絡先”は入っていたか。校舎に立ち入れない状況に置かれた場合を考える。早急に。

△オクレンジャー対応が建物外でもできるように。

○戻らない、戻れないを想定して引き渡しカード or 緊急カードを持ち出す。

緊急時は事務職が持ち出す。集団下校、地区別下校、引き渡し訓練は実施を。

また、小中学校連携は模索できるか。

○ 追い出しの先生方の様子を見てみると、「避難するよ。誰かいるかな」と叫んで、教室の中には入らずに、入口のところで叫んで次の場所へ移動していった方がおられたが、教室の中に入って、ロッカーなどを開けたり、トイレも個室毎に確認したりして跡見をしっかり行ってもらいたい。（教室の隅々まで確認を！）

○ 避難経路を常日頃から、出火場所を想定して選択し動けるような学習を繰り返し行っていただきたい。

○ 今後、校庭の次の二次避難の場所も考えておく必要があるかと思う。

○ 訓練の中で、一番重要なことは、児童の中に逃げ遅れがないかどうか。その日の欠席状況等を把握して、避難状況確認の徹底をしていただきたい。

万が一、児童がいない時は、「最後に何処辺りで見たのか？」という情報を子どもから聞いておいてもらいたい。（消防が駆けつけたときに、まずその場所から児童を探す動きをするため）

5 事業の成果及び今後の課題

防災アドバイザーの指導を受けたことにより、新たな試みに取り組もうとする意識の高揚を図ることができた。また、緊急地震速報受信システムにより、訓練をより正確かつ迅速に、繰り返し行うことが容易にできた。

今回の訓練で、その場に座って放送を聞いている時、窓ガラスの近くや物が上から落ちてきそうな場所にいる児童がいたことを考えると、児童への防災教育として、どの場所が危険なのかを考えさせ、危険な場所から離れて放送を聞くことを教えていくことが必要であると感じた。また、聞く場所だけでなく、様々な内容を想定して、子ども達に考えさせ行動させることを今後重視していかななくてはならないとも感じた。

さらに、私たち教師が今回の自分の動きの中で、よかったことや課題だと思われたことを記録にとどめ、次回に生かしていくこと、さらには、このような訓練を絶えず繰り返し、課題はリニューアルして、積み重ねていくことの重要性を教えていただいた。

6 まとめ

今年度は防災アドバイザーとして、信州大学の榊原先生に来ていただき、避難訓練の実施要項へのアドバイス、避難訓練時の児童の様子や職員の様子から、良さと課題を教えていただいた。本校の中だけで行っていると、課題が見えてこないが様々な視点で助言をいただき大変有意義な時間を持つことができた。来年度以降、今回いただいたアドバイスをもとに、さらに、実践的で堅実な避難訓練が積み重ねていけるように準備をしていきたい。

(文責 教頭 唐澤信好)